

植物遺伝資源探索導入調査報告書

通卷第30卷

植物遺伝資源探索導入調査報告書

平成二十五（二〇一三）年度

農業生物資源研究所

平成25（2013）年度

平成27年2月

独立行政法人 農業生物資源研究所

査読

今井 篤
蝦名 真澄
大瀧 直樹
奥泉 久人
加賀 秋人
加藤 信
菊池 彰夫
河野 雄飛
猿田 正恭
島村 聡
高井 智之
寺島 義文
土門 英司
内藤 健
西川 智太郎
馬場 晶子
福井 邦明
本田 裕
森下 敏和
山田 哲也
山本 伸一

Reviewed by

Atsushi IMAI
Masumi EBINA
Naoki OHGATA
Hisato OKUIZUMI
Akito KAGA
Shin KATO
Akio KIKUCHI
Yuhi KONO
Masayasu SARUTA
Satoshi SHIMAMURA
Tomoyuki TAKAI
Yoshifumi TERASHIMA
Eiji DOMON
Ken NAITO
Tomotaro NISHIKAWA
Akiko BABA
Kuniaki FUKUI
Yutaka HONDA
Toshikazu MORISHITA
Tetsuya YAMADA
Shin-ichi YAMAMOTO

編集者

遺伝資源センター

友岡 憲彦 (編集長)
江花 薫子
土門 英司
内藤 健
馬場 晶子
福井 邦明
山本 伸一
奥泉 久人 (編集事務局)
西川 智太郎 (編集事務局)
小川 裕子 (編集事務)
野中 絵梨 (編集補佐)

Edited by

Norihiko TOMOOKA (Chief Editor)
Kaworu EBANA
Eiji DOMON
Ken NAITO
Akiko BABA
Kuniaki FUKUI
Shin-ichi YAMAMOTO
Hisato OKUIZUMI (Associate Editor)
Tomotaro NISHIKAWA (Associate Editor)
Yuko OGAWA (Assistant Editor)
Eri NONAKA (Editorial Staff)

Genetic Resources Center, NIAS

まえがき

1985年（昭和60年）に始まったジーンバンク事業は、来年いよいよ30年の節目を迎えます。長期にわたって当事業を継続することができたのは、遺伝資源の重要性を理解し、これまで当事業に携わった関係諸氏の努力の賜であると確信しております。植物遺伝資源の保存点数も現在では約22万点と発足当初からほぼ倍増し、農業生物資源ジーンバンクは、世界でも有数のジーンバンクに成長しました。

また、生物資源における遺伝的多様性の重要性は、国際的な共通理解としてさらに高まりつつあります。我が国の「生物多様性国家戦略2012-2020」の具体的施策においても、「名古屋議定書」及び「食料・農業植物遺伝資源条約」を締結し、国際条約と整合した形で食料農業植物遺伝資源の利用及び保全を推進することが謳われております。当ジーンバンクにおいても、昨年日本が批准した「食料・農業植物遺伝資源条約」への対応を進めました。保存している約18000点の植物遺伝資源を条約の多数国間の制度に登録すると共に、植物遺伝資源へのアクセスをより容易にするために、配布価格を下げる取り組みを行いました。

本報告書には、平成25年度農業生物資源ジーンバンク事業の植物遺伝資源部門における探索・収集及びその関連研究等の他、当事業に依らない2件の植物遺伝資源の現地調査情報を収載しました。本報告書は農業生物資源ジーンバンク事業による探索収集調査の報告を第一義としていますが、植物遺伝資源の現地調査情報を集積することは事業の発展のためにも重要と考え、他予算による現地研究等の報告も適宜掲載する方針です。今後とも遺伝資源に関する貴重な情報をお寄せいただければ幸甚です。

最後に、私たちの活動に指導と支援をしてくださった国内外の方々に、心から感謝申し上げます。とりわけ貴重な遺伝資源をさまざまな情報とともにご提供頂いた皆様に深謝いたします。

平成26年12月
農業生物資源研究所
遺伝資源センター長
根本 博

植物遺伝資源探索導入調査報告書（平成 25 年度）

目次

まえがき

根本 博

I. 国内探索収集調査報告

1. 長崎県壱岐島および平戸島におけるマメ科作物近縁野生種遺伝資源の収集と保全 2013年	1
高橋 有・秋葉 光孝・飯泉 敏勝・友岡 憲彦	
2. 沖縄県八重山列島における <i>Vigna</i> 属植物遺伝資源の探索収集 2013年	29
高橋 有・内藤 健・小木曾 一・田中 映理・井上 潤二・平島 信也・友岡 憲彦	
3. 東北地域における野生大豆（ツルマメ）の収集 —青森県下北半島地域—	53
島村 聡・加藤 信・菊池 彰夫	
4. 茨城県東南部におけるサトウキビ野生種（ワセオバナ）の探索及び収集	63
田中 穰・吉田 孝・境垣内 岳雄	
5. 秋田県及び新潟県（佐渡）におけるジュズダマ他の探索・収集	71
本田 裕	
6. 北海道東部と山形県におけるオギ遺伝資源の探索・収集	81
眞田 康治・小路 敦・田村 健一・奥村 健治	
7. 岩手県におけるオギ自生株の探索と収集	93
藤森 雅博・秋山 征夫・久保田 明人	
8. Collection of a Rare and Endangered Wild Grapevine Species, <i>Vitis kiusiana</i> Momiyama, in Southern Kyūshū, Japan	101
Hiroyuki IKETANI, Atsushi KONO, Yusuke BAN, Shin-ichi YAMAMOTO and Nobuko MASE	

II. 海外探索収集及び共同調査報告	
1. カンボジアにおけるマメ科植物遺伝資源多様性の保全, 2013年	109
高橋 有・Ung PEOU・Seang LAY HENG・Ty CHANNA・Ouk MAKARA, 友岡 憲彦	
2. ミャンマーにおける農林業の生物多様性・遺伝資源・伝統的知識に関わる政策： シードバンクの戦略的役割についての展望	145
香坂 玲・岩田 まり・入江 憲治・富吉 満之・西川 芳昭・渡邊 和男	
3. Feasibility Study for Field Research: Ethnobotany and Ecology of Wild and Cultivated Aroids in Assam State, Northeast India	159
Peter J. MATTHEWS and Dilip MEDHI	
III. 海外植物遺伝資源探索収集及び共同調査チームの派遣実績	185
IV. 国内植物遺伝資源探索収集チームの派遣実績	197

Contents

Preface

Hiroshi Nemoto

I. Exploration and Field Research in Japan

1. Collection and Conservation of Wild Leguminous Crop Relatives on Iki and Hirado Islands, Nagasaki Prefecture, Japan, 2013 1
Yu TAKAHASHI, Mitsunori AKIBA, Toshikatsu IIZUMI, Norihiko TOMOOKA
2. Collection and Field Survey of Wild *Vigna* Genetic Resources in the Yaeyama archipelago, Okinawa Prefecture, Japan, 8th to 14th July, 2013 29
Yu TAKAHASHI , Ken NAITO , Eri OGISO-TANAKA,
Junji INOUE, Shinya HIRASHIMA, Norihiko TOMOOKA
3. Collection of the Wild Soybean (*Glycine soja*) in the Tohoku District - the area of Shimokita Peninsula, Aomori Prefecture - 53
Satoshi SHIMAMURA, Shin KATO and Akio KIKUCHI
4. Exploration and Collection of Sugarcane Wild Species (*Saccharum spontaneum* L.) in the Southeastern Part of Ibaraki Prefecture 63
Minoru TANAKA, Takashi YOSHIDA and Takeo SAKAIGAICHI
5. Exploration of Job's tears Genetic Resources in Akita Prefecture and Sado Island in Niigata Prefecture 71
Yutaka HONDA
6. Exploration and Collection of *Miscanthus sacchariflorus* in Eastern Hokkaido and Yamagata Prefecture 81
Yasuharu SANADA, Atsushi SHOJI, Ken-ichi TAMURA and Kenji OKUMURA
7. Exploration and collection of *Miscanthus sacchariflorus* in Iwate Prefecture 93
Masahiro FUJIMORI, Yukio AKIYAMA, Akito KUBOTA
8. Collection of a Rare and Endangered Wild Grapevine Species, *Vitis kiusiana* Momiyama, in Southern Kyūshū, Japan 101
Hiroyuki IKETANI, Atsushi KONO, Yusuke BAN,
Shin-ichi YAMAMOTO and Nobuko MASE

II. Exploration and Field Research in Foreign Countries		
1. Collection and Conservation of Leguminous Crops and Their wild Relatives in Cambodia, 2013	• • • • •	109
Yu TAKAHASHI, Uong PEOU, Seang LAY HENG, Ty CHANNA, Ouk MAKARA and Norihiko TOMOOKA		
2. Policy and Governance on Agricultural Biodiversity, Genetic Resource and Traditional Knowledge in Myanmar: Perspectives on Strategic Roles of Seed Bank	• • • • •	145
Ryo KOHSAKA, Mari IWATA, Kenji IRIE, Mitsuyuki TOMIYOSHI, Yoshiaki NISHIKAWA and Kazuo WATANABE		
3. Feasibility Study for Field Research: Ethnobotany and Ecology of Wild and Cultivated Aroids in Assam State, Northeast India	• • • • •	159
Peter J. MATTHEWS and Dilip MEDHI		
III. PGR missions dispatched abroad by the Genebank Project since 1975	• • • • •	185
IV. Explorations organized in Japan by the Genebank Project since 1986	• • • • •	197

I . 国内探索収集調査報告
Exploration and Field Research in Japan

Ⅱ. 海外探索収集及び共同調査報告
Exploration and Field Research in Foreign Countries

投稿規定

(平成 26 年 12 月 18 日現在)

目的：

本報告書には、農業生物資源ジーンバンク事業による探索・収集及びその関連研究をはじめとして、植物遺伝資源にかかわる現地調査・研究の論文及び関連する情報を掲載する。

投稿原稿の体裁・提出：

投稿原稿は日本語または英語とし、「投稿原稿作成要領」に従って作成すること。

投稿原稿は、原則 Microsoft Word 形式で作成する。

投稿原稿は、電子ファイルにて編集委員会事務局に提出する。

投稿原稿は担当編集委員が選ぶ 2 名以上の審査員の審査を受け、最終的な採否は編集委員会により決定する。

著者は、審査結果を受け取った後、速やかに修正し担当編集委員へ送付しなければならない。やむを得ない事情により送付が遅れる場合は、担当編集委員の了解を受けること。

掲載の順序、論文の体裁などは編集委員会で決定する。

校正：

著者校正は 1 回行う。校正刷は受領後速やかに校正の上、編集委員に返送する。

別刷：

別刷 50 部は無料進呈する。

著作権：

本誌に掲載された全ての記事内容は、独立行政法人農業生物資源研究所の許可なくして無断の転載を禁止する。

原稿送付先及び連絡先：

植物遺伝資源探索導入調査報告書（植探報）編集委員会事務局

〒 305 - 8602 茨城県つくば市観音台 2 - 1 - 2

独立行政法人 農業生物資源研究所

遺伝資源センター 多様性活用研究ユニット

TEL&FAX: 029-838-7458

E-mail: plantan@gene.affrc.go.jp

投稿原稿作成要領

(平成 26 年 12 月 18 日現在)

書式：

1. A4 用紙サイズで、横書きとする。原則 Microsoft Word 形式で送付する。外字の使用は禁止する。
2. 原稿は、表題、著者名、所属機関、責任著者連絡先（電子メールアドレス）、要約（以上について、和文原稿は和文および英文）、キーワード、本文、引用文献の順に記載する。英文原稿の場合は、本文の最後に和文摘要を付ける。
3. 本文は、1. 目的、2. 材料と方法（対象植物、収集・調査方法）3. 収集（調査）結果、4. 考察、5. 謝辞を原則含む。
4. 著者名の英語表記は、名・姓の順とし、姓はすべて大文字表記とする。
5. 連名著者の所属が異なる場合、著者名の右肩に数字をつけて所属を示す。
6. 原稿内で初出となる生物の学名には、命名者名を明記する（例：Oryza sativa L.）。
7. 原稿作成に際し具体例を必要とする場合は、以下を参照すること。

1) 国内探索調査

小島 洋一朗・河瀬 眞琴 (2004) 能登半島における作物在来種の調査と収集. 植探報 20: 1 ~ 9.
[URL: [http://www.gene.affrc.go.jp/pdf/publications/plant-exp_2003\(20\)_p1.pdf](http://www.gene.affrc.go.jp/pdf/publications/plant-exp_2003(20)_p1.pdf)]

2) 海外探索調査

TOMOOKA *et al.* (2012) Collection and Conservation of Leguminous Crops and Their wild Relatives in Cambodia, 2011. AREIPGR 28: 125 ~ 137.

[URL: [http://www.gene.affrc.go.jp/pdf/publications/plant-exp_2011\(28\)_p125.pdf](http://www.gene.affrc.go.jp/pdf/publications/plant-exp_2011(28)_p125.pdf)]

参照：過去の報告書 (URL: http://www.gene.affrc.go.jp/publications.php#plant_report)

※本例が本要領に準拠していない部分は、本要領に沿うこと。

図・表および写真：

1. 図・表、写真は 1 ページに収まる形に作成する。ただし、遺伝資源収集リスト詳細の表を除く。
2. 図・表、写真には表題（和文・英文併記）を付け、必要に応じ説明などを付ける。
3. 表は、原則 Microsoft Excel 形式で作成する。セル結合などの使用は避ける。
4. 図・表は文書ファイルに貼り付けず、別ファイルにて作成、送付する。図、写真についてはオリジナルの画像ファイルも併せて送付する。

遺伝資源のパスポート登録：

1. ジーンバンク事業にて収集した遺伝資源は事前にパスポート登録し、本報告書には JP 番号を付けて掲載する。

植物遺伝資源探索導入調査報告書

通巻第 30 号

刊行 独立行政法人 農業生物資源研究所
〒 305-8602 茨城県つくば市観音台 2-1-2
電話 029-838-7458

Published by the National Institute of Agrobiological Sciences
Kannondai 2-1-2, Tsukuba, Ibaraki 305-8602
Japan

平成 27 年 1 月印刷
Printed in Jan., 2015

印刷 朝日印刷株式会社つくば支社
〒 305-0046 つくば市東 2-11-15

ISSN 0915-602X

Annual Report on Exploration and Introduction of
Plant Genetic Resources

Vol.30

February 2015

National Institute of Agrobiological Sciences